

東京・ソウル・台北・長春 官展にみる近代美術

2014年6月14日(土) - 7月21日(月・祝)



1. 郭雪湖 (グオ・シュエフ) 《円山付近》 1928年 台北市立美術館

阪神・淡路大震災20年展

東京・ソウル・台北・長春

官展にみる近代美術

Toward the Modernity:

Images of Self and Other in East Asian Art Competitions

展覧会概要

本展は、20世紀前半の東アジアの近代美術を、官設の公募美術展(官展)という切り口から考える初めての展覧会です。韓国や台湾の研究者・学芸員との共同企画であり、各地の所蔵者の理解と協力により実現しました。東京、および日本の統治下・影響下にあったソウル、台北、長春で開かれた官展の出品作や、審査員をつとめた作家の作品を中心に、各国・地域の近代美術の諸相を約130点の作品で紹介します。

日本、韓国、台湾、中国東北部(旧「満洲」)という4地域をカバーし、今回ほど多くの作品が集まる機会はこれまでありませんでした。4つのコーナーに並ぶ絵画、書、彫刻、工芸から、共通する部分とオリジナリティ、それぞれの「近代」が浮かび上がります。

会期等

2014年6月14日(土)～7月21日(月・祝)

休館日:月曜日(7月21日は開館)

開館時間:10:00～18:00

※金・土曜日は夜間開館(20:00まで)

※入場は閉館の30分前まで

次の日程で一部作品の展示替えを行います

前期:6月14日(土)～6月29日(日)

後期:7月1日(火)～7月21日(月・祝)

会場:兵庫県立美術館 企画展示室

主催:兵庫県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

後援:公益財団法人伊藤文化財団、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、
神戸市教育委員会

助成:芸術文化振興基金

協賛:ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン・日本興亜損保

協力:ホテルオークラ神戸

官展とは

官設の公募美術展のことです。20世紀前半、東アジア各地で、政府主導のもと開かれました。1907年に東京で始まった文部省美術展覧会(文展)にならい、1922年にソウル(旧京城)で朝鮮美術展覧会(朝鮮美展)が、1927年に台北で台湾美術展覧会(台展、のち府展と改称)、1938年に長春(旧新京)で満洲国美術展覧会(満洲国展)が創設されました。

各地の官展は、美術を志す人々の登竜門であり、新しい時代の美術にふれる機会となっていました。若い作家にとって、官展における成功は、美術の道で生きていくために重要なものでした。こうして近代美術の形成において基礎のひとつとなる一方、日本人による審査によって入選や授賞が決められ、制度に対する反発もありました。穏健で保守的な傾向、官展が認めるスタンダードと、自分ならではの表現、個人々のアイデンティティがせめぎあう場であり、さまざまな葛藤の中から、時代を代表する作品が生まれました。

観覧料

一般1,300(1,100)円 大学生900(700)円

高校生・65歳以上650(550)円 中学生以下無料

※()内は、前売および20名以上の団体割引料金
(高校生・65歳以上は前売なし)

※障がいのある方とその介護の方1名は各当日料金の半額
(65歳以上除く)

※割引を受けられる方は、証明できるものを持参のうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めください。

※県美プレミアム展の観覧には別途観覧料金が必要です(本展とあわせて観覧される場合は割引あり)

※前売券は4月26日(土)から6月13日(金)まで販売します。会期中は販売しません。

※前売券販売場所:JTB各支店・総合提携店、コンビニエンスストア、ほか京阪神のプレイガイド

※コンビニ商品番号 前売券:0237160 当日券:0237161
ローソン、セブンイレブン、ファミリーマート、サークルKサンクス、ミニストップ各店で販売。番号は全コンビニ共通。

※詳しい情報は当館ホームページをご覧ください。

展覧会内容

東京

文展・帝展と日本の近代美術

1907年から、東京で文部省美術展覧会（文展）が始まりました。その後1919年に帝国美術院展覧会（帝展）となり、1935年の改組を経て文部省美術展覧会（新文展）に引き継がれました。官展は、早くから審査員の任命や賞の選考方法などの問題が指摘されていましたが、美術を制度化し普及するシステムとして、大きな役割を担っていました。



3. 土田麦庵 《平床》 1933年 京都市美術館（6月29日まで展示）

ピックアップ

文展・帝展で活躍する作家たちは、官展の審査などで朝鮮や台湾に赴き、現地の風景や風俗に取材した作品を描いています。未知のエキゾチックなモチーフが、画家の新たな画風の展開を呼び起こしました。



2. 安井曾太郎 《京城府》 1936-38年 宇都宮美術館

ソウル

朝鮮美展と韓国の近代美術

1910年の韓国併合により日本の統治下におかれた朝鮮半島では、1922年から、ソウル(旧京城)で朝鮮美術展覧会(朝鮮美展)が開かれました。朝鮮美展において、作家たちは、日本人審査員が求めた技術の水準と「朝鮮らしい」主題や表現にこたえながら、自らのアイデンティティを探求し、優れた作品を生み出しました。民族の伝統文化や朝鮮半島の自然を近代的な視点でとらえた作品は、独自の近代美術を形づくっています。



7.キム・インスン(金仁承)《裸婦》1936年 リウム三星美術館

ピックアップ

東京美術学校に留学していたときの作品で朝鮮美展で昌徳宮賞を受賞しました。公序良俗に反するとして当時の朝鮮の新聞・雑誌には図版が載りませんでした。若い画家にとって、裸婦はモダンな実験であり、伝統的な価値観に対する挑戦でもありました。



4.イ・インソン(李仁星)《窓辺》1934年 リウム三星美術館



5.チャン・ウン(張遇聖)《帰牧》1935年 韓国国立現代美術館



6.キム・ギチャン(金基昶)《或日》1943年 韓国国立現代美術館

この章には、朝鮮美展の創設に関わった、あるいは同展に参加した日本人作家も含まれています。加藤松林人は、朝鮮各地の風景を描きとめた画家です。本展への出品作品は、ソウル(当時の京城)を熟知しているからこそ生まれた作品といえます。



かとうしょうりんじん
 8.加藤松林人《京城茶洞所見》制作年不詳 阿南市

台北

台展・府展と台湾の近代美術

1895年に日本に割譲された台湾では、1927年から、台北で台湾美術展覧会（台展）が開かれました。1938年から主催が変わり、台湾総督府美術展覧会（府展）と呼ばれています。

朝鮮美展と同様、台展・府展においても、「台湾らしさ」が追求されています。それらは、日本人審査員からの要望であると同時に、自分自身の在り方をめぐる問いでした。伝統文化と台湾社会の近代化を見つめ、郷土の風景を明るい色彩で描き出した作品には、「地方色（ローカル・カラー）」が表れています。



11. 陳進（チェン・ジン）《アコーデオン》1935年 台北市立美術館

ピックアップ

流行のチャイナドレスをまとった女性。伝統文化に根ざしつつ西洋的な教養も身につけたモダンガールの姿は、女性画家である陳進にとって、自己の表現でもありました。



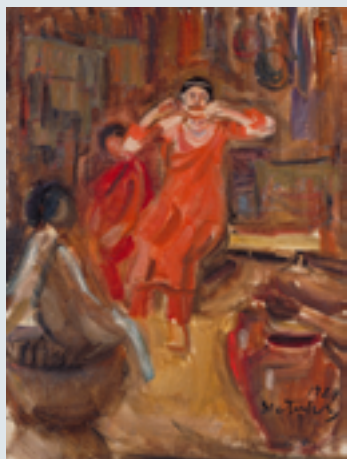
1. 郭雪湖（グオ・シュエフ）《円山付近》1928年 台北市立美術館
 ※表紙と同画像



9. 林玉山（リン・ユイシャン）《故園追憶》1935年 国立台湾美術館



10. 陳澄波（チェン・チェンポー）《初秋》1942年 財団法人陳澄波文化基金会



12. 塩月桃甫 《口ボを吹く少女》1924年 宮崎県立美術館

この章には、台展・府展の創設に尽力し台湾人画家を指導した日本人作家も含まれています。塩月桃甫は台北第一中学校と台湾総督府高等学校で教鞭をとり、台展の創立に参加しただけでなく、初回から最終回まで西洋画部の審査員をつとめました。

長春

満洲国展と「満洲」の近代美術

1932年に日本政府の強い影響のもと中国東北部に建国された「満洲国」では、1937年、皇帝溥儀の日本訪問を記念して訪日宣詔記念美術展覧会が開かれ、翌38年から満洲国美術展覧会が始まりました。出品作品が今までのところ見つかっておらず、同展に参加した作家の同時代の作品や日本への引き揚げ後に描かれた作品などを展示しています。



14. 劉榮楓 (リュウ・ロンフォン) 《満洲の収穫》 1930年 星野画廊

ピックアップ

大陸らしい明るい光に満ちた風景です。日本で生まれ育った劉（彼の父は遼東半島の出身で、日本に帰化しています）にとって、中国東北部は異郷であり、父祖の地でもありません。



13. 甲斐巴八郎 《少年》 1950年 中村菊人氏蔵

関連イベント

記念講演会「朝鮮美術展覧会の画家たち」

講師：金炫淑(キム・ヒョンスク)氏

(徳成女子大学 人文科学研究所 研究教授)

6月15日(日) 15:00～(約90分)

ミュージアムホールにて 聴講無料(定員250名)

記念講演会「異郷の昭和美術ー中国東北部の日本人社会と満洲国美術展覧会」

講師：江川佳秀氏(徳島県立近代美術館 学芸調査課長)

7月13日(日) 14:00～(約90分)

ミュージアムホールにて 聴講無料(定員250名)

ギャラリー・トーク

講師：ラワンチャイクン寿子氏(福岡アジア美術館学芸員)

6月14日(土) 14:00～(約60分)

企画展示室にて 聴講無料(13:30に展覧会場入口集合・先着20名)

学芸員による解説会

6月28日(土)、7月12日(土) 16:00～(約45分)

レクチャールームにて 聴講無料(定員100名)

ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中の毎週日曜日 11:00～(約15分)

レクチャールームにて 聴講無料(定員100名)

こどものイベント

7月5日(土) 10:30～12:30

アトリエ2にて

要申込 要参加費(定員30名、小・中学生とその保護者)

お問い合わせ・お申込み：こどものイベント係 TEL 078-262-0908

特別上映 KEN-Vi名画サロン「宋家の三姉妹」

6月22日(日) ※午前と午後2回上映

監督：メイベル・チャン

出演：マギー・チャン、ミシェール・ヨー、ヴィヴィアン・ウー、ほか

ミュージアムホールにて 有料(定員250名)

主催：兵庫県立美術館アートフュージョン実行委員会

NPO 神戸100年映画祭 兵庫県映画センター

お問い合わせ：兵庫県映画センター 078-331-6100

※関連イベントの詳細情報は当館ホームページをご覧ください。

同時開催の展覧会

県美プレミアム

コレクション
〈特集〉ノアの方舟ー蒐集による作品たち

3月22日(土)～7月6日(日)

会場：兵庫県立美術館 常設展示室

県美プレミアム

〈小企画〉美術の中のかたち一手で見る造形

横山裕一展「これがそれだがふれてみよ」

〈特集〉新収蔵品紹介(仮題)

7月19日(土)～11月9日(日)

会場：兵庫県立美術館 常設展示室

横尾忠則現代美術館での同時開催

阪神・淡路大震災20年展

横尾探検隊 LOST IN YOKOO JUNGLE

4月12日(土)～6月29日(日)

※特別展又は、県美プレミアムの有料チケット半券のご提示で、団体割引料金でご覧いただけます。

(詳細はHPなどでご確認ください)

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

企画内容に関すること

担当学芸員: 鈴木慈子・飯尾由貴子

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

交通案内

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅から南に徒歩約10分

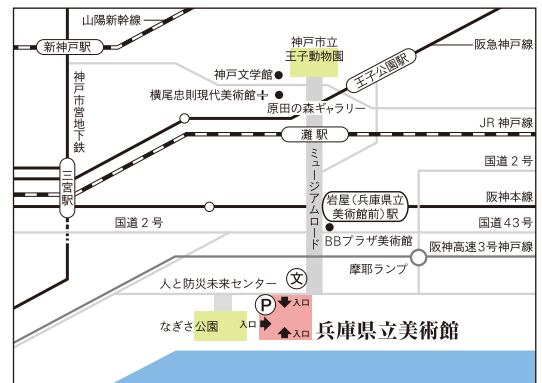
阪急神戸線王子公園駅から南西に徒歩約20分

JR三宮駅南から神戸市バス・阪神バス「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場: 乗用車80台収容・有料

*ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

*団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 電話 (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	作家名・作品名・制作年など	章
1	郭雪湖 (グオ・シュエフ) 《円山付近》 1928年 台北市立美術館	台北
2	安井曾太郎 《京城府》 1936-38年 宇都宮美術館	東京
3	土田麦僊 《平牀》 1933年 京都市美術館 (6月29日まで展示)	東京
4	イ・インソン (李仁星) 《窓辺》 1934年 リウム三星美術館	ソウル
5	チャン・ウソン (張遇聖) 《帰牧》 1935年 韓国国立現代美術館	ソウル
6	キム・ギチャン (金基昶) 《或日》 1943年 韓国国立現代美術館	ソウル
7	キム・インスン (金仁承) 《裸婦》 1936年 リウム三星美術館	ソウル
8	加藤松林人 《京城茶洞所見》 制作年不詳 阿南市	ソウル
9	林玉山 (リン・ユイシヤン) 《故園追憶》 1935年 国立台湾美術館	台北
10	陳澄波 (チェン・チェンポー) 《初秋》 1942年 財団法人陳澄波文化基金会	台北
11	陳進 (チェン・ジン) 《アコーディオン》 1935年 台北市立美術館	台北
12	塩月桃甫 《ロボを吹く少女》 1924年 宮崎県立美術館	台北
13	甲斐巳八郎 《少年》 1950年 中村菊人氏蔵	長春
14	劉榮楓 (リュウ・ロンフォン) 《満洲の収穫》 1930年 星野画廊	長春

※上記画像を媒体掲載される際には、記載の作家名・作品名・制作年などを必ず入れてください。

※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。ご了承ください。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日			
画像到着希望日			
読者・視聴者プレゼント用招待券 (最大10組20名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)	組 名分希望		

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD)、URLなどを、上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いいたします。

※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。